

文書館 もん じよ かん ニュース

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.56



contents

- メインスタジアムの変遷で辿る山口県の近代スポーツ 2/3
- 歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議 4
- 全史料協大会・研修委員会事務局を担当 4
- 地方調査員制度五〇年 5
- 資料小展示から：明治期山口県の相撲興行 5
- 令和三年度 新収諸家文書の紹介 6
- 「授業で使える文書館活用講座」リニューアル 7
- 当館所蔵資料をお近くの博物館・美術館で！ 7
- 描かれた世界観―「中郷八幡宮周辺見取図と絵巻長門峡案内」― 8

テニスにおける「ウインブルドン」、高校球児にとっての「甲子園」など、選手にとって大会が開催される場所そのものが憧れの対象となることがあります。ここでは、山口県のスポーツ発展を支えたメインスタジアムを振り返ってみます。

Ⅲ 山口県陸上競技場

(後に維新百年記念公園陸上競技場と改称)



「マスゲーム」(行政資料写真グラフ山口-山口国体259)

《東京オリンピックにつながる国体》

東京オリンピックの前年、昭和38年(1963)に「オリンピックにつながる国体」として、第18回国民体育大会が山口県で開催されました。山口県は国体とオリンピックという大きなスポーツイベントを2年つづけて経験することになりました。

この国体開催に合わせて山口市吉敷に新しいメインスタジアムが建設されました。メインスタンドの長さ166m、3階建定員7,800人の観客席は、当時東京の国立競技場に次ぐ全国2番目の規模でした。

この国体は東京オリンピックの前年ということもあり、各競技とも熱戦が繰り広げられた結果、空前の新記録ラッシュの大会となりました。世界新記録3、世界タイ記録1、日本新記録33、日本タイ記録14、大会新記録に至っては204でした。



夏季大会会場となった宇部市恩田運動公園水泳プール(行政資料写真グラフ山口-山口国体166)

昭和61年8月に開催された全国高等学校総合体育大会(インターハイ)でもメイン会場となりました(行政資料写真グラフ山口-高校総体50)



Ⅳ 新・維新百年記念公園陸上競技場

(現：維新みらいふスタジアム)



現在のスタジアム(山口県HPより)

《2度目の国体にあわせ全面改築》

平成23年(2011)10月、山口県にとって2度目となる国民体育大会と全国障害者スポーツ大会が、東日本大震災復興支援大会として開催されました。この大会のメイン競技場として全面改築されたのが現在のスタジアム(維新みらいふスタジアム：第1種公認)です。

このスタジアムを含む維新公園内には、補助陸上競技場(第3種公認)、ラグビー・サッカー場、テニスコート(16面)、弓道場、維新大晃アリーナ(体育館、武道場、視聴覚室他)、野外音楽堂、いこいの水広場、ちよるる広場(多目的広場)などの施設も備え、スポーツ・文化・レジャーの拠点として広く県民に親しまれています。

第16回中国四国地区アーカイブズウィーク

武芸・体育・スポーツと文書館資料

～きたえる たたかう ととのえる たのしむ～

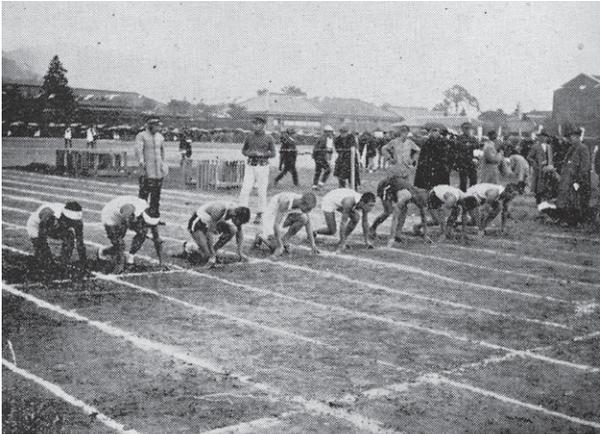
新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度は中止したアーカイブズウィーク。令和3年度は、全編オンラインでの開催となりました。閲覧室でのアーカイブズ展示はできませんでしたが、展示予定資料の解説を館員がオンラインで行いました(解説シートはウェブサイトでご覧いただけます)。

歴史探究講座「山口県のスポーツ『いま』『むかし』」(講師山本明史専門研究員)、アーカイブズ歴史小話もオンラインでの配信でした。書庫内の資料の様子を「ちょっとだけ」SNSで紹介する「SNS文書館案内」も好評でした。



メインスタジアムの変遷で辿る山口県の近代スポーツ

I 山口県高等商業学校グラウンド



「山口県教育」第282号(雑誌文庫Y山口県教育46)

《田島直人・阿武巖夫もこの場所から》

山口県に本格的な陸上競技場ができる以前、県体育大会などが開催されたのは、主に山口高等商業学校のグラウンド(現:亀山公園ふれあい広場)でした。上の写真は、大正12年(1923)の第9回山口県体育大会の様子で、400mトラックの背後には旧県立山口図書館書庫(現:クリエイティブスペース赤れんが)や旧制山口中学校の校舎(現在、文書館がある場所)が見えます。陸上競技跳躍の田島直人や短距離の阿武巖夫ら山口県を代表するアスリートもこのフィールドから育っていきました。山口県のスポーツ発展の揺籃期を支えた場所です。県内ではその他、防府町設グラウンド、宇部市神原運動場、長府競技場(表紙参照)、徳山中学グラウンドなどでも各種スポーツ大会が開かれました。



「防長新聞」明治32年2月14日(新聞文庫Y防長新聞9)

左の写真は明治32年(1899)2月11日に山口高等学校で行われた全国初の長距離走を伝える防長新聞の記事です。同校グラウンド(後の山口高等商業学校グラウンド)を出発し、防府天満宮前までの11.5マイル(およそ18.5km)を走りました。

この大会の様子は、防長新聞ほか、ジャパントイムス、時事新報などによって大々的に伝えられました。

II 山口県設総合運動場



「山口総合運動競技場建設一件」(県庁戦前A土木追加64)

《西日本一のスポーツの大殿堂》

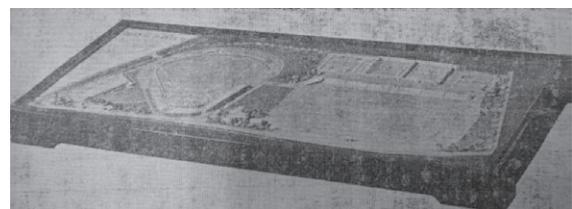
昭和8年(1933)、山口県のメイン競技場として県設総合運動場が山口市に設置されることが決定され、建設地をめぐる誘致合戦の後、昭和10年10月12日、大内村川向(現:山口中央高校)に「西日本に誇るスポーツの大殿堂」が完成しました。

この競技場は、公爵毛利元昭の古稀記念として建設経費を毛利家が負担し、毛利家から山口県知事に贈呈されました。翌13日には開場を記念した競技大会が開催されました(写真下プログラム)。

施設の内訳は、野球場(1万人収容、ネット裏・内野に観覧スタンド)、陸連公認陸上競技場(1万5千人収容、正面観覧席、100m直線コース、400mトラック)、水連公認水泳場(500人収容、50mコース、飛び込み台設置)、球技場(2千人収容、庭球場4面、排球場・籠球場各2面)という豪華なものでした。以後、山口県の主要なスポーツ大会はこの競技場で行われました。



「山口県内各種競技記録綴」(池田家文書6)



競技場の模型:「防長新聞」昭和9年3月14日(山口県立山口図書館蔵)

第12回

「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しました

令和四年二月二日、文書館閲覧室を主会場に、第十二回「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しました。これは、平成二十二年度から年一回、県および県内市町の文書管理や文化財保護の担当者などを対象とした当館主催の会議です。今年度はオンライン形式も取り入れ、一八名の参加がありました。

今回のテーマは、「基礎自治体公文書館の現状と課題―公文書の評価選別・引き継ぎ・保存―」でした。県内には市町立の公文書館はありませんが、公文書管理をめぐる状況が大きく変化する昨今、基礎自治体公文書館の活動と課題について学ぶことは意義あることだと思います。

そこで大仙市アーカイブズの蓮沼素子氏を講師に、「基礎自治体におけるアーカイブズ設置と公文書管理の現状と課題―大仙市アーカイブズを事例として―」と題して御講演いただきました。平成二十九年の開館以来、大仙市アーカイブズで取り組まれてきた活動や、現在抱えている課題など、具体例に即してお話しいただきました。

続く演習では、大仙市アーカイブズが行った公文書の評価選別をモデルに、参加者はリスト選別の演習を行いました。選別作業は事前に行うこととし、当日は保存か廃棄か悩んだ事例や体験を通じた感想などを発表した後、参加者の発言を基に、蓮沼氏から大仙市アーカイブズにおける選別の判断について解説いただきました。

今後ともこの連絡会議を継続して開催し、市町のみならずと連携しながら、歴史的公文書の適切な保存・管理に努めていきたいと思えます。



令和三年度と四年度 全史料協大会・研修委員会事務局を 担当しています

全国の文書館・公文書館等が連携する団体のひとつに、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（略称：全史料協）があります。全史料協は、歴史資料の保存利用活動の振興に寄与することを目的に、昭和五十一年（一九七六）に発足しましたが、近年では、平成二十一・二十二年度に副会長事務局、平成二十七・二十八年度には調査・研究委員会事務局を引き受けています。

今年度と来年度は大会・研修委員会を担当することとなりました。大会・研修委員会は、年一回開催される全国大会と大会研修会（以下、「全国大会」）の企画・運営を担います。全国大会は文書館・公文書館などが設置されている地を中心に、全国各地を回って開催されてきました。山口県では、昭和五十一年の結成大会と、平成十六年（二〇〇四）の発足三十周年大会とを開催しています。

こうした中、新型コロナウイルス感染症への配慮が求められる時代となり、今年度の全国大会は、高知県高知市に令和二年に開館した高知県立公文書館を配信会場に、全史料協史上初めてオンラインで開催することとなりました。

大会の開催にあたっては、高知県立公文書館をはじめ、高知県立高知城歴史博物館・高知市立自由民権記念館の両館、地域で資料保存の活動に取り組む「こうちミュージアムネットワーク」から御協力をいただきました。全国大会は委員会のメンバーと連携を取りながら、十一月十八日・十九日の二日間、「資料保存ネットワーク」の拡充とアーカイブズと連携と支援、高知の挑戦」をテーマに開催しました。二日間で二〇〇名を超える参加があり、高知県内での活動報告に耳を傾け、盛況のうちに無事終了することができました。

地方調査員制度五〇年

地域の文書記録に向き合う

昭和四十六年（一九七二）に発足した地方調査員制度は、令和二年度（二〇二〇）五〇周年の節目を迎え、現在、五一年目の活動を行っています。当制度は、基本的に県内の旧郡を単位に地方調査員を委嘱して、その地域の文書・記録等の情報収集、調査、文書目録の作成・報告等を行っていたのですが、これまで年に二回、当館で調査員会議を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度は一回のみの開催で、しかもリモートと対面の併用で実施しました。今年度もリモート・対面の併用で会議を行いました。また調査員の活動も、感染対策を前提とせざるを得ず、様々な制約が生じています。

地方調査員制度は半世紀を経過しましたが、未だ眠ったままの状態にある文書・記録等が存在すると思われれます。今後、日の目を見ずに姿を消していくものもあるかもしれません。

また既に存在が知られた文書・記録等も何らかの理由で廃棄や散逸という憂き目にあつたものもあります。先人の遺した文書・記録等は、後世に生きるわれわれにとって生きる指針にもなりうる貴重なものです。できる限り未来へ繋げていけるよう努めたいと考えています。

こうした活動にご理解いただき、情報の提供や調査へのご協力をお願いします。



オンラインでの地方調査員会議のようす(7月7日)

令和三年度資料小展示から

明治期山口県の相撲興行

河野家文書の紹介

当館所蔵の河野家文書には、明治期（一三〇年代）、山口県内での相撲興行に関する資料が八〇点ほど残されています。そのなかに、明治七年（一八七四）二月、阿武（山分）勝五郎という人物が熊ヶ嶽安五郎に対し「相撲世話人」（相撲の興行主）となることを認めた免許状があります（写真下）。熊ヶ嶽安五郎は、当時の河野家当主・河野保次郎が興行主として名乗った名前です。河野家はこの時から県内での相撲興行を担う一人となりました。このため河野家文書には、それ以後の相撲興行にともなう様々な帳簿、免許状、取組表などが残っているのです。写真上は、明治十九年（一八八六）十二月、山口町の米殿小路で行われた「稽古相撲」の図。他国力士も招いた大規模な興行でした。

なお、阿武（山分）勝五郎は、幕末期の長州藩諸隊のひとつ「力士隊」の頭取を務めた人物と同一人と考えられます。勝五郎の足跡を知る上でも貴重です。



「山口米殿小路町において相撲稽古連名之図(部分)」(No611)



「免許状(相撲世話人の事)」(No586)

新収諸家文書を

紹介します！

今年度、九家・二、四九五点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から三つの文書群を紹介します。

■田中家文書

大内政弘の側近で奉行人・右筆であった相良正任が、石見国の武士である大家出雲守の働きを労うようにという政弘の意向を大内氏家臣の神代弘夏に伝えたものです。能筆家で知られた正任の自筆と考えられます。なお、田中家の由緒及び文書が同家に伝えた経緯は不明です。

■中村氏収集文書

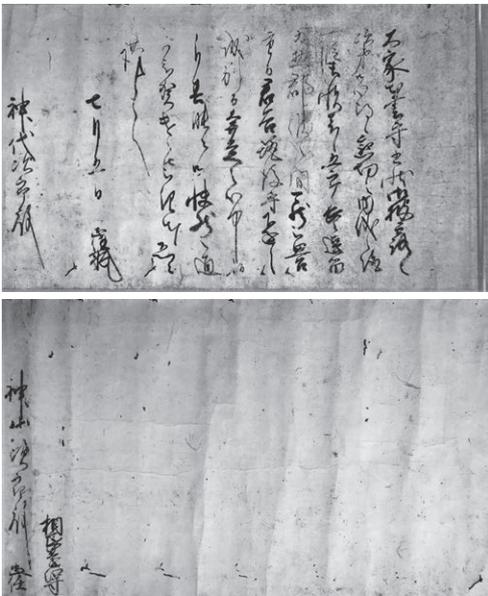
中村氏は、自宅を「博図館」と名付け、古物、古写真などさまざまな資料を集めていたコレクターです。今年度は、中村氏のコレクションのうち、絵葉書について整理・目録化しました。山口県内のもの、国内各地のものに止まらず、朝鮮・中国に関する絵葉書も多数含まれています。

■中山家文書

中山家は、戦国期は江良氏（陶氏重臣で、毛利氏服属後は寄親を務めた家）の家臣でしたが、江戸時代は帰農して周防国都濃郡大向（当初萩藩領。元和七年（一六二一）以降は徳山藩領。現、周南市）に居住しました。のちに徳山の幸丁（往還道沿い）へ移住して町人となり、町年寄を務め、蔵本付格とな

りました。中山新六・伴七（善右衛門）父子は、正徳享保年間（十八世紀前半）に徳山藩再興運動の中心人物であった奈古屋里人と深くかわり、再興運動に奔走したことで知られています。同家の屋号は、最初松村屋で、のち古屋と改め、家業としては、酒造業を営みました。近代になって同家は富田古市（現、周南市）へ移住し、中山東一郎が昭和戦前期に南陽町長を務めました。

文書は、中山家が①「家」として活動した過程で作成・授受された文書群、②江戸時代に町年寄などとして活動したことに関わって作成・授受された文書群、③近代に公的な役職に就任したことに関わって作成・授受された文書群、に大別されます。量的には①に分類される文書が大部分を占めており、系譜・由緒や酒造に関わる文書のほかに、中山伴七（古屋善右衛門）が奔走した徳山藩再興運動に関わる文書が含まれているのが特色です。



田中家文書(長崎県) No.1 相良正任奉書

■令和三年度の新収諸家文書

No.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴（関連地域、個人・家の歴史、就任役職等）
1	荒瀬家文書（防府市／追加）	35	近代～現代	図書
2	木村一人文書（追加）	1	近代	教員
3	田中家文書（長崎県）	1	中世	大内氏
4	長松家文書	24	中世～近世	安芸国人／萩藩陪臣（右田毛利家臣）
5	中村氏収集文書	661	近代	絵葉書
6	中山家文書（周南市）	429	近世～現代	町年寄（徳山藩領）
7	古畑家文書（追加）	13	近世～近代	コレクション（庄屋／商家）
8	松元淳収集文書（追加）	1323	近代～現代	コレクション（亀井伯爵家文書）
9	山根家文書（山口市／追加）	8	近世～近代	桑名藩士

「授業で使える 文書館活用講座」を リニューアルしています！

当館では、平成四年度（一九九二年度）より、県内の小・中・高校・特別支援学校の先生向けに、文書館資料を活用するきっかけを提供することを目的として、「授業で使える文書館活用講座」を開催してきました。近年の社会状況の変化を受け、少しずつリニューアルを進めています。

令和三年度は、講座の日程と受講方法を変更し、全四日間八コマの講座を、一コマより受講可能としました。これまでは四日間を入門・実践の二コースに分け、一コース（二日間）から受講を受け付けていました。時間をかけてじっくりと資料に向き合う時間が取れると好評であった一方で、まとまった時間が取れないと受講できないため、参加しにくいとお声もいただきました。このたびの変更は、このような状況を受け、一人でも多くの先生に御参加いただけるようにしたものです。



講座「明治・大正・昭和の刊行物」のようす

コロナ下での対面方式の講座ということで、距離を取りつつ、授業で使えるような収蔵資料の紹介やデジタルアーカイブの紹介など、講義中心の講座となりましたが、参加しやすく、集中して受講できたと好評でした。コロナ下での講座実施についても一定の目安ができたので、来年度は演習的な内容も盛り込んでいく予定です。教育のICT化の進展や、公文書館等の学習利用を明文化した新学習指導要領の実施など、学校をとりまく状況が大きく変わってきています。この講座が現場のニーズにお応えできるよう、御意見を伺いながら、より充実した内容にしていきます。

当館所蔵資料を お近くの博物館・美術館で！

当館では、各地の博物館・美術館などへ、所蔵資料の貸し出しもこなっています。令和三年度は、資料の受け渡しの際に十分な空間を用意するなど、新型コロナウイルス感染症対策を取った対応となりましたが、さまざまな展示へ、館蔵資料が出張しました。本年度は、県立山口博物館と萩博物館で「旅と街道」をテーマにした連携企画展がおこなわれたため、参勤交代の道中を描いた「行程記」や、江戸時代の町人の旅日記などが出展されました。

また、令和三年（二〇二一）は毛利元就没後四百五十周年ということで、毛利元就をテーマにした展示が中国地方の各館で開催されました。館蔵の元就ゆかりの文書も出展され、それぞれ独自の視点で紹介していただきました。

当館所蔵資料のうち、中世文書や絵図、利用の多い「譜録」などの資料は、原本保護のため、通常の閲覧の際には写真版などを提供しているものが多くあります。そのような資料も、博物館や美術館などでの展示であれば実物を御覧いただけるうえ、興味深い切り口や解説とともに楽しめます。出展情報は当館SNSにてお知らせしています。ぜひチェックして、足をお運びいただいで、当館所蔵資料の魅力や可能性を感じてみてください。

なお、貸出期間中は当館での原本の閲覧は制限されます。当館データベースに反映させておりますので、あらかじめ御確認のうえ調査計画をお立てください。



県立山口博物館「旅と街道」に出品した「行程記」(山口部分)

史料紹介

■描かれた世界観 —「中郷八幡宮周辺見取図と絵巻長門峡案内」—

重要文化財「山口県行政文書」をはじめ、当館が所蔵する明治～昭和戦前期の資料の中には、当時の県内各地のようすを観察できる絵図面や写真などが含まれています。そこに描かれた世界観を読み解いてみます。

●中郷八幡宮（山口市小郡）

明治39年（1906）4月、全国の古建築の「めきき」役の立場にあった東京帝国大学教授・内務省古社寺保存会委員・建築史家の伊東忠太が中郷八幡宮楼門の視察に訪れます。

明治28年「古社寺取調書」（県庁戦前A社寺No.125）によれば、この楼門は応永28年（1421）の建築で、名工竹田番匠の手になるものであり、称光天皇の御真筆と伝わる「八幡宮」の扁額が掲げられていました。社伝によれば、大内弘貞が宇佐から勧請したものとされます。

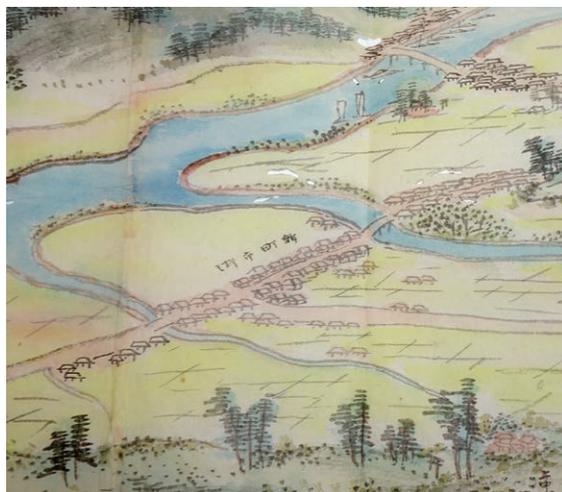
神社境内の周辺見取図（写真右上）には、眼下に樵野川の舟運の様子や、街道沿いに連なる家並みが描かれており、交通の要衝としての重要性を物語っています。境内地には貝塚が確認されているほか、「ふなつなぎ石」の伝承もあり、水辺との強いつながりをうかがわせます。山口盆地の咽喉部にあたり、重要な場所であったと思われます。

中郷八幡宮楼門は、特別保護建造物指定に向けての手続きが進められていましたが、明治45年焼失。現在は大正2年（1913）に再建された社殿がたたずんでいます。サクラの名所としても知られる境内地からの好望は、見取図に描かれた大内時代の世界観をしのばせます。

●長門峡

国内有数の景勝地長門峡の探勝者に向けて、さまざまなルートマップやガイドブックが制作されました。そのうち、大正から昭和戦前期にかけての長門峡開発のすべてが集約されたのが、昭和18年（1943）発行の「探勝記念絵巻長門峡案内」（写真右下〈山口市藤井家（1）文書-No.253〉）です。

萩美術協会を主催した洋画家水沼兼雄（周防大島出身）の作品と思われるもので、阿武川支流の「金郷溪」や「佐々連鍾乳洞」など、今日では探勝者の足が遠のいた景勝地も含め、溪谷美が色鮮やかに、そして端麗に描かれています。わかりやすい観光案内図であったばかりでなく、地元の期待感が凝縮された未来予想図でもありました。



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00

【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
閲覧室へは2階へお上がり下さい。
※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。